

なぜか えいしょう につぽんこくけんぽう

はずかしながら
よんだことがなかったので
ぼえ犬くんも
よんでみました。



「なぜか詠唱。日本国憲法」

始まりは視覚障害者のS君にみんなで声のお手紙を出そうというところから。録音したMDが楽しいものだったので、後日、cocoroomに遊びにきていたひでまろに「どう?」なんて言って、聴かせたところ、半年後には、なぜか「詠唱・日本国憲法」なるアルバムになっちゃってました。ひでまろ曰く「この国をかたちづけている最高法規である憲法を、誰もちゃんと読んでない。せやから、いっぺん読んでみひん?」うーむ。カタイこと言いつつ、おしりを関西弁にして上手に誤魔化しはるわ。このひと。いろいろ苦勞してはんのね。(せやのになんでまた苦勞の上塗りするような企画を思いつくかなあ)この提案を受け、いろんなことばを声にしてみることを実践中の上田假奈代が去年の年末のライブでいきなり朗読。会場はやんややんや大ウケ。ああアクロバット。ひやひや!観客の感想:「憲法って、こうやって聞いてみると面白いものですね」「ほな録音してみよかあ〜」「そうだなあ〜」と3月中旬、cocoroomの日程とミュージシャンだけ押さえて臨んだ公開レコーディングイベント「ぼくたちはひなまるである」の壇上、ひでまろは「今日の音源を5月3日の憲法記念日に発売します」って、おい!聞いてないよおおおお!ひと月ちょっとしかないやんけー!とずっこける我々を尻目に、荒っぽい勢いで時はすぎていき、それぞれのアクロバットな仕事ぶりの結果、約束の日、形容しがたいフリー朗読ミュージックが姿を現した。アルバム「詠唱・日本国憲法」。いっぺん聞いてみひん?

※奥村ひでまろ・・・音楽プロデューサー、セイロクファクトリー代表

鍵付きの坂道の夜

河野宏子さん(27歳)がマイクの前に立って日記を読んでいる

その表紙のオレンジの色を どこかで見たことがあるなと おとこの夢を思い出すように マシンをたちあげ煙草の尻をたたく

ネーブルの皮に爪をたてると

甘酸っぱいインドシナの海峽を渡って

白い帆をあげた舟が海岸べりをすすんでくる

波のしぶきが デスクにかかり

デスクの上のみどりのコースターの上の水が

かち と鳴る

水が階段を降りる

4Fから3Fへ 3Fから2Fへ

踊り場を向きを変え 記憶のなかにある

降りてゆく

万事がこの調子で 今日いちにも夕暮れた

河野さんには まだこのはしはしてないが

河野さんが読んだ日記の 2004年の3月のあの日の夕暮れを

河野さんが踏んだ自転車のペダルが回転していく坂道の

速度で 夕暮れに踏みこんでゆくのと同時に夜がひびかれるとき

わたしは和歌山にいた

爪の先まで 近づいてくる夜の海の前で さかのばれない時間に

鍵をかけたことももう 忘れて

いつしんに坂道をくだった

鬱蒼とした夜がせりあがり

風に鳴る松林の向こうに

暗い色をした塔が頂上に見えて 鉄の音で

おおきな鍵をまわしたような音で

がら がら と 風車がまわる

もう何もかも ええんやで

そんな顔で死んでいった祖母の

ふるえる指先に 冷えた夜がからむ

今日もまた 鍵をかけ忘れた坂道を

夜がかけおけてゆく

ココル-CAFEの珍事BEST10

1. マンゴージュース売切れ(ごめん)
2. え!? 本当におひるね?
3. 水だけのお客様
4. 恐怖!お客よりビール飲むSTAFF
5. ミニカーを売りたいんですけど。(お断りした)
6. 「駐車場はどこですか?」(3Fです)
7. え?ココから食中毒?(無事、無実と証明)
8. 旅人が来たので「オムスビ」あげました
9. OPENは12時〜23時
10. まかないTIMEは、昼12時30分〜14時30分
夜19時〜22時です。



CDアルバム

「詠唱・日本国憲法」

5月3日憲法記念日緊急発売

¥2,100(税込み)

Produced by ZEIROKU-FACTORY with cocoroom

詠唱:上田假奈代 ウォン・ジクスー

音楽演奏:ひなまるバンド

■問い合わせ

TEL.06-6366-1662 (cocoroom)

購入方法

●通信販売/メール(携帯電話不可)や電話でお申し込みいただき、宅急便(代引き)にてお届けします。手数料と送料はお客様のご負担となります。

■電話申し込み先 (cocoroom)

tel.06-6636-1612 / tel.fax.06-6636-1662

■メール申し込み先 / kenpou@zeiroku.com

6月下旬、全国のCDショップ、書店でお求めいただける予定です。*cocoroomでも発売中

特集: Books Archives

～声が明日のページをめくっていく～

小説を朗読している、のを録音している、のをその場で聴いている静かな夜の企画BA。月に4回、ほぼ毎月曜日。仕事帰りに立ち寄れる8時半から始まる。早めに来て、ココルーム名物まかない料理(600円)を食べて、ビール片手に席につく人もいる。ゆったりと静謐な時間。物語にゆだねたところが風の強い日の雲のように空をかける。

一昨年から視覚障害の方とワークショップを続けてきて、声のもつ力を知った。また「ぼえ茶会」などで小説を語るという朗読を行い、その面白さに気づいた。そのうえ、なぜか「生きる現代文学」をやりたいと思い、文学を声にすることを考えた。現代文学へ向って何か共同の作業が行えないだろうか。若手作家の作品を募集するのは、文学へのささやかなエールである。

BAでは、この語りをCDの形にして、アーカイブし、貸し出しを行なう。非営利のため、制作はすべてボランティアとココルームが行なっている。週ごとに繰り返されるため、その煩雑な作業量は肩に重い。それを天秤にかけて1年もの間を継続するこの試みが何をもたらすかは、実のところわからない。

けれど、生きるとは毎日の繰り返しであり、その積み重ねにすぎないのであれば、今日を昨日と異ならしめるために、あきらめず、明日に漕ぎだすことばを声にしてこう。

上田假奈代

参加者のレポート

BOOKS ARCHIVES「ライトハウス職員の井野です」

井野知子



上田假奈代さんが「声とコトバのWS」をしている視覚障害者の福祉法人日本ライトハウスの職員の井野です。WSにはWon Jiksoo さんも参加されました。私は施設利用者のコミュニティと假奈代さんはじめアーティスト・ボランティアの交流関係を今後も大事にしたいと思っています。そして毎回のWSは作品として、コミュニティとアーティストの共同作業となっています。さて、假奈代さんとWonさんがBOOKS ARCHIVESを始める事を知りました。しかも「音源をCOCOROOMの声とことばの資料としてアーカイブ保存。視覚障害をお持ちの方などの普段現代文学に触れる機会が少ない方々も気軽にご利用いただけます」と書かれてあります。

ライトハウスでは「ボランティア友の会」の方々が朗読録音をしてくれています。私は今回の假奈代さんとWonさんの朗読の世界に是非とも参加したいと思いました。そしてそれが毎回の参加となりました。

假奈代さんが読むのは、山口泉著「吹雪の星の子どもたち」です。聞いている自分の心の中に、假奈代さんの話す言葉の一つ一つが地球ではない違う星の世界を創っていきます。その星にいる5年生のチエーロ。彼の生きる呼吸に私は引き込まれてしまいました。聞いている私はチエーロと一緒に呼吸しているのです。これからも、假奈代さんの声でチエーロに会う時間が楽しみです。

まるで舞台を聞くようなWonさんの朗読。新人作家の松井美也子著「うつつつ」と伊集院静著「えくぼ」を読みました。

Wonさんの朗読のイメージは「身体の中から物語が飛び出して来る」という感じです。むかしむかしの話ですが、私は日下文史のラジオの朗読番組を待っていた者です。Wonさんもそれに共通します。また次回も聞かせ!と思います。

「BOOKS ARCHIVES」の始まる時間は20時半です。始めは遅いなあ!と思いました。でも月曜日の仕事帰りCOCOROOMのまかない定食を食べながら本を読んでいると、「そろそろ時間ですよ!」となります。

これからも二人の朗読の世界を楽しみたい自分です。そしてそれは録音されます。視覚障害の方々も触れる機会が増えた事ですね。うれしいです。

参加者のレポート

BOOKS ARCHIVESレポート

高石 聡

2月某日

サイトで「BOOKS ARCHIVES」の概要を目にする。腹、くくったんだ、と思った。対談だとか、翻訳本の朗読十バントマイムのコラボレーションだとか、そのぎざしはみえていたのだけれど、ずうっと自己表現に御自分の詩を朗読してきたかたが、人の作品を朗読することの意味を考える。それは、他者の生を生きるということ? 新たな生を読みなおすということ?

4月5日(月)

cocoroomをのぞいてみる。おそろおそろ。初めてのBOOKS ARCHIVESの日。サイトの紹介ページを改めてみて(いくらか更新されてた)、でも行って聴いてみないとよくわからない。最近とみに、謎な企画に弱くなって、心魅かれる私。客席の方へ。どきどき。少し落とされた照明。向かって右に大きなテーブルがあって、上田假奈代さん。が席についているのだけれど、それよりも何よりも、マイクとマイクスタンドが林立。10本くらいはありそう。さらに、風除けフード?要は黒くて丸いのが二枚、假奈代さんの右のほおと左のほおのすぐ前に。マイクは頭の上からも二本、假奈代さんを目がけ…つつ微妙に左右に振りつつ。マイクに包まれて、いかつい。…本気で録音するんだ。エーカゲンな居住まいを直す。ちょっと気圧されつつ、席につく。上田假奈代さん、挨拶と、この企画の説明と、そして朗読する本の紹介。お話しつつ、考えつつ、また語りつつ、手探りな感触。表紙の絵や、裏表紙、本を初めて手にされたときのこと。著者である山口泉氏とお会いされた印象なども。繊細で静かな予感。「吹雪の星の子どもたち」という題名のごとく、地球ではない「吹雪の星」なので、一年が十三カ月あったり、月や曜日の呼び方が違ったり、重さや貨幣の単位も不思議。SFとはよびたくない重みを感じる。

序詞、「生きる」という言葉をつかわずに生き、…」するすると導かれる。

ナビゲーターは上田假奈代。

第一章。遊んでいた子供たちは、いつの間にやら別れ、少年は一人、橋を背負って家路についている。假奈代さんの声と場景が渾然一体となって目の前に広がり、包まれる。

雪の、野原。静かな、空気。

少年と少女。束の間の、邂逅。凍えた、小鳥。

目を限り、時にながめ、みつめる。目の不自由な人の、目に惑わされない自由な世界を想う。

不思議な、でもしっかりとした実体をもった、物語はここから、はじまる。

第一夜が終わって。フェスティバルゲート、4階。誘われるがままに、外に出て、ぐるっとまわって、見上げると月は、まあい蛍光灯のように、どの照明より明るく白く照っていた。

4月12日(月)

第二夜。やはり、マイクによってたかたか困まれている。あやしい。ちょっと鼻声な假奈代さん。御挨拶をされつつ、さっそく、第二章。

少年チエーロは家に着く。夕暮れに、電気の消えた軒先。普段と違う、不穏な静けさ。一步踏み込むと、暗闇に蹲っている弟。母と父、それは荘厳な、旅だちの夜。一言一言が、心情を波紋のように広げていく。

録音の都合もあり、20分程度ごとに休憩をはさむ。

初めておみえの方のために、改めてこの趣旨と、先週のあらすじをなぞる。少し、目を白黒させている。確かに、一定の年齢になると別の星へ、といった少し違う世界と、出発の戸惑いや決意、というささか身に覚えのある感情との混淆は、不思議な感覚を織りなしていく。

第三章。旅だちの集合場所、広場で。チエーロの姿を見つけると泣きそうな弟分の友だち、そして、屋は馬鹿みたいに遊んでたのに今はすっかり大人びてみえる友だち。それはわずか数時間しか経てない再会なのに。そして、その広場で、典雅な礼装を身にまとった子どもたちの喧騒。形而上に広めく煌き。

おそろく心血を注がれた文章、はしかしさりと端整である。時の流れに忠実に、けれどふとしたきっかけにすばと回想に入る。しばし。假奈代さんはハスキーに、熱に浮かされ突っばる。ライヴなドライブ感。

静謐な、時間。しっとり、そと、息をひそめて、すでにとても大切な週一回のひとときになっていることに、突然、気づく。

それも、いつ果てるでもない。激しく静かに引き込まれていく。(つづく)

観念の王国 <http://sst.gaiax.com/home/windswept>

於集電腦女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
隨時求新同胞以愛



Web 女流詩人の蘭の会

<http://www.osrim.or.jp/~orchid/>

poenique

<http://poenique.jp/>

日本最大級の
総合詩サイト 詩の寄り添う場所。

P.P.P.P.C.B.N. 国籍・人種・性別・思想・信条・信仰などにとられることなく、新しい表現とは何か？を模索し続けるプロジェクト。だったはずだが、あっという間に全国の変人さん大集合に変貌。出演者はもはや人類というカテゴリーに収まらず、会場自体廃園決定。アトムも産まれていない21世紀の空の下で、すでに世紀末の風情あふるるフェスティバルゲートの一室で、昨日と今日を異ならしめるために、現在を絶えず各げようのない未来にむけて挑撃するというしかたで、わたしたちは詠唱する。既知から未明の未来へ漕ぎだすために。と、口上を述べたのだが、4月の後半、事務所のゴミ箱に「男祭り弁当」が山積みになっている。メモ用紙散らしたるブッキング担当者のマシンには「男だつたら、出て来いや!!」のシールが貼ってある。かなりの割合で何か男祭りとして化していることを、わたしは黙認した。何かを乗り越えたい時に、キャッチーな言葉を見つけることは大事なことだから。たとえそれが宇宙でも汗臭い言葉であっても。さて、連日50人から130人が出入りした1週間、わたしが何をしていたか。自分の仕事を放りだし、窓を磨き、雑巾がけをし、食器を洗い、受付をする。観客、出演者、スタッフが有意義な時間を過ごせるように。事故なく、安全に、段取りよく進むように。冒頭にあんなに大見栄きつたのに、やっつてはこと地味だった。コカールのミッションのひとつ「表現活動の継続支援」項目もどか地味である。そして、1週間を経験したわたしは次なる課題を感じた。まだうまく言語化できないのだが、場所提供にとどまらず、表現活動にまつわるものと世の中との間を繋いでいくこと。マネジメントとかではなく、意識のところまで。「暮らしと表現」の新しい価値感の醸成。でも、どうやればいいんやろ。男祭り弁当は首にタオルを巻き、汗を拭き拭き、今日も「うがーPPPP!」と仕事に励んでいる。あきらめないで、ひとつづつ考え、行動し、獲得していくしかないのね。

上田假奈代(コカール代表)

「にっぽんマイノリティまつり」出演者一覧

- 4月29日(木/祝)「救急車運転士の逆襲」ナイト**
nova-express(空間言語結晶化ユニット/こんかいはMAXで) 岡田峰樹 with 正本智恵(モンゴル音楽 with 二歳児の母) rgan(オルガン弾くわけじゃありません) よこじたに(解体と進捗と膨満感) 福永祥子+はくさんまたか(詩の朗読とその周辺) 周川ひとみ(白塗り踊り乙女)
- 4月30日(金)「俺はS・A・R・Sじゃない!」ナイト**
拍尾振(のこぎり音楽物語) 小川賀子(シンガーソングライター) 清水啓司+上田假奈代(完全即興対決) 森山英将(なんでしょうか俺は?) 千明史<a.k.a. chori>(スポークン・ワース) VIVIAN GIRLS(ノイズ) むっちゃんとかちちゃん(フランメンコ?)
- 5月1日(土) 狛犬な夜第3夜** ジャパンホールマキプロデュース ニッチモ&サッチモ URANO/バンド 鎌倉研 谷内暁子
- 5月2日(日) お芝居デー** 芝居紳士プロデュース 芝居紳士 かのうとおっさん margarets hope 音更
- 5月3日(月/祝)Wvol.3阿佐田巨プロデュース/望郷アギョウ村(サイケデリック語り部ユニット)ねじれル ハシモトカヨ もぐらが一周するまで 横山千秋(詩ボク興西準優勝者)らにて(ロック) エロ狂言師 大和川レコード**
- 5月4日(火/祝) まろだす通信** 奥村ひでまるプロデュース パンツ パンツ パンツ(今、話題沸騰!パンツパンツパンツ)Twins(話題沸騰、京都のR&Bデュオ)伊佐常照(謎のセンキレブルースギタリスト)田淵徹(奥田民夫といわんとして)歌屋BOOTE(憂歌団風ナンバーならおまかせ)ハダカデンキユウ(新感覚カラオケ女) 桑原滝弥 (from名古屋)
- 5月5日(水/祝) 名古屋ロック詩人の逆襲!」ナイト**
LOVED LOVED(かっちょいいロックンロールだなも)あぶらなぶり(フリージャズによるブルースでかんわ)紫放送(ポエトリーヒップホップだざや)桑原滝弥(うおー、わしの棺桶はどこじゃー) 加久裕子(菊花のカタキは私が討つ!) 石川正恵(スピリチュアルオペラでこんす) 富岡三智(ジャワ舞踊じゃわ) あわ屋(ジャバトロニクスじゃば)

「総合的」であることが目的ではない。その先にあるものへ①

僕が『P.P.P.P.C.B.N』の担当を受け持ち、はや三回。イベントを進めるにあたって、色々考えさせられることがある。そのうちの一つをこの場を借りて記したい。まず、何故「総合的、ジャンル交錯型」でなければならないのか?こんな根本的なことをイベント担当である者自身が、発言してはいけないような問いかもしれない。しかし「総合的、ジャンル交錯型」であることは、イベントにとってはひとつの形式、手段であって、その先に(もしくはそれ以前に)、「ではなぜそのようなイベントにしたいか」という、目的や理由がなければならない。その理由、目的如何では、ジャンルや出演者の選出にも、おのずと必然性が発生するのではないか。自分を戒める意味も含めて正直に言うと、『P.P.P.P.C.B.N』は、現段階では、理念よりも「総合的」であること自体に重きが置かれていると思われる。もちろんキュレーター自身が、その現状に満足しているわけではないのもよくわかっていて、ブッキング制度という方式にも対応しなければならぬ現状はなかなか理想を許さないものだ。こうなったら理想を語りたい。理想というよりは、先程から述べている「総合的」であることの先にある目的についてだ。この目的というのは飽くまで僕個人が思う処だ。念のため、その目的は「出演者の芸」という対象の「提示の仕方、置き方」。これを実験できる処にある。つまり、……で、今からこのコラムは物凄い勢いで盛り上がりを見せようかと思われたところ、字数の関係上、続き、具体論は次回に回すとして。まあ、なんとも究極の尻切れトンボ!「蜜柑の皮を剥いているけど、話はいつも尻切れトンボ※」の、蜜柑の汁が目飛び込んだみたい。

※大滝詠一「指きり」より。歌詞は松本隆氏によるもの。
報告者: 阿佐田巨(大和川レコード)

P.P.P.P.C.B.N. ディレクター坂本ぶでいんぐ齋は、いつも問う男だ。「いいじま君!P.P.P.P.の全ステージをレコーディングするというのはどうだろう!」「めんどくさいから、イヤ!」わたしはにべもない。ぶでいんぐ齋の勢いはとまらない。「本当にすごいことが起こってるんや!これを記録しないというのはどうだろう?」また出た。ぶでいんぐ齋の「どうだろう?」cocoroomの奥の事務所は『どうだろう御殿』である。前回のぼえ犬通信掲載のP.P.P.P.C.B.N. 経過報告書から、約2ヶ月。その間の出演者は延べ83組にのぼり、今回の経過報告ではスペースの都合上、出演者レビューはサイトにて公開、紙ではお届けできなくなった。にもかかわらず、出演83組のほとんどのレビューを4日徹夜して描きあげた男がいた。cocoroomのプリン名人・坂本ぶでいんぐ齋である。彼はP.P.P.P.C.B.N. に対し、真の愛情をもって取り組んでいる。わたしが「詠唱・日本国憲法」の仕上げにかかりきりになっていたので、彼はプリンそっちのけで「にっぽんマイノリティまつり」の準備をやりとげた。出演者の演出希望により天井を抜いただけのことはある。彼の机の上は混乱状態なのだが、上方にはクリップが整然と壁に打ちつけられ、日別、出演者別に作成したチケットやタイムスケジュールが吊られ、段ボールで作った棚にアーティストファイルがきちんと収まっている。「いいじま君!P.P.P.P.はホンマすごいんや!すっぱだかでヘイジュードを絶唱するヤツとか、世界と隔絶してぶーちやんが人生という舞台に立った瞬間とか!ステージでラーメンを食べようとして食べられへんかったやつとか!あんな全部録音しといたらなあ!」うーむ。彼の嗜好は少々偏りすぎである。最近、ぶでいんぐ齋は出演者の記念撮影までもはじめた。巨体に白衣と白帽子を着て、出演者には「はいチーズ」など言っている。手前味噌になるが、P.P.P.P.C.B.N. は今、関西でも屈指のおもしろい内容を誇りはじめていたのではないかと。毎夜ドラマがある。様々なジャンルが交錯する厳しい場でもある。この場を陰ながら引き受けているのは、あくまでも表現者サイドに立つ白衣の男。大工の腕をふるって、シェフとしてもてなし、受付をしながらか、時計をみながら、フットイングを手伝い、汗をぬぐっている。おそらく、人間の真の極みを見たいんだろう。

P.P.P.P.C.B.N. の詳細なレビューはインターネットでご覧ください
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/pppp.html>

- 3/9(火)「昭和を生きた」**
麗なぶり(あぶらなぶり+上田假奈代) 杉浦貞(紙芝居いじさん) 岸昆虫(ダンスパフォーマンス) 勝野タカシ(どうもすばらしい)
- 3/15(月)タマちゃんスペシャル「月曜の夜に召喚ナイト!」**
東京からの刺客: tricomi(かわいしのぶ・ホアチョ・水谷裕) IM1からの刺客1:アプリケーションエラー(ライブ) 2 PLANET JUICE(エレクトロニカ) 3 あわ屋(Yux Tomokichi=ジャバトロニクス) 質面の山奥からの刺客:江剛成(岩田江×弘兼剛 サックスコンビ) NPO法人からの刺客:STYLE(NPO法人会計士ユニット) 地底からの刺客:もぐらが一周するまで(あこがれ音楽)
- 3/19(金)scenery/風景vol.1**イファ&Traditional Speechプロデュースイファ(目を閉じれば浮かんでくる) nein titel female(from Surf Spiro + nayuta) エスエフ・ソロウストリオ(from 映糸 + 景砂スペースサイケデリックブルースバンド)
connect to your mindscape(Bobolops+Loop+GAS+nodako+QVO)
- 3/23(火)「真夏みたいだね真夜中みたいだね」**
PALANOIA106(ものすごいテクノ) 望郷アギョウ村(サイケデリック語り部ユニット) ラブハンター-熱い朝(妖怪かなちゃんの大親友) SUMIDA(はげ二人組改め坊主二人組) nova-express+藤堂悠貴子(空間言語結晶ユニット+サインパフォーマンス)
- 3/27(土)PPPPCBNvol.2**阿佐田巨(大和川レコード)プロデュース alna Katsoum(空間征服サウンドプロジェクト) 細胞文学(ふとした瞬間) 斉藤友秋(vo, g, fi) 黒田誠二郎(cello, vo) のデュオ ばきりノす(憑依する物の怪、でも何処かみんなの唄) 西森光枝(御呼ばれ女優)
- 4/6(火)「予期せぬ出来事」**
河野宏子(語るべきコトノハ) cinecova(鮮烈なる純映画) テジコジ(NPO法人の偉いさん) 上田假奈代(代役出演) なにデジ(廣絵師町) ロタコウジ(出演すらしません) APRIL POOL(バタフライで25m×10m 音楽)
- 4/20(火)「怪人チューバ男と掃除機男と電話女と南海の大決闘」**
口八丁(高岡大祐×森本アリ) 高岡ソロ、森本ソロ さゆ(電話局のまわしも) TOMY & MAC(ブルースロックの達人達)
- 5/11(火)「ほのぼんぼうずの逆襲」**
SUMIDA(坊主二人組) 西川文章(弾かないギター) 井上義昭(音響系ギターパフォーマンス) 花野生涯(NPO法人会計vs劇団代表vs朗読女)

「まあ、最低3回はやりますから。」
狛犬な夜 ブッキング担当: 狛犬マキと見通しも無いのにそんなことを言って、会場費の値切り交渉から入ったと記憶する「狛犬な夜」。

- 1: 世間に流されず地道に音楽活動を続けている僕の友人・知人達を集めてライブをする。
- 2: ステージの転換にマイクレクションとも言える狛犬スライドショーを挟み、観客と出演者を一気に狛犬の世界へと引きずり込む。

という、公共性もへったくれもない個人的思いつきコンセプトのライブ企画であるのに、多数の出演者と観客に恵まれ、ノルマ3回を無事終えることができました。

総合的に評判もよし。しかもオール黒字公演。
そしてまた反省も見通しも無く「狛犬な夜」は続きます。7月24日。

くさつみあいうえお

上田味左子



みさちゃんの詩集
「あいうええええ」
ココラムに
来てくれたら
さしあげます

あたらしいめ
いのちがふくらむと
うききはるがはじまる
ええ きもち
おいしく
かおりもなつかしい
きれいなみどりいろの
くさをつもう
けって
こわいどくそうつまません
ざっそうとさげすみません
しっかりとくさの
すがたをおぼえます
ぜいたくなたのみです
ぞうきばやし
たらのめやしあぶら
ちよびりのこしてのさんさいつみ
つみになってはなりません
てゆびがくるくそまります
どてにみそぬってたべたらええ
ながいれきしのなかでの
にんげんのちえでしょう
ぬすびとではありません
ねこそぎとりません
のやまをいつくしみ
はたけのなかにははいりません
ひとりひとりがマナーをまもり
ぶさほうはやめましょう
へいぼんなくさ
ほしいほしいとおもっていたくさ
まだまだしらないくさのせかいです
みずみずしくさたちの
むごんの
めっせーじを
もっとたくさん
やさしくうけとめたい
いただきます
ゆたかにしゅんをあじわう
えぐみもあくもあじのうち
よもぎによめな
らいらくに
りょうりほうはかんたんに
るいごとにさいしゅしておく
れいこうもごちそう
ろうおおいくさつみを
わくわくたのしみにかえる
ゐなかびと だれもかれも
うたがわしいくさたべて
ゑずいてはなりません
をとこもをんなも
しぜんにいきて

れいこう (アカザのあつもの意) 粗食

「野原を食べるかい」レポート

上田のぞ美

母・みさちゃんは「野草料理人」。

「野原を食べるかい」が始まったのは約10年ほど前かな。

奈良は吉野の実家では、参加者が摘み草をしてその場で調理と食事をするという、今風に言えばワークショップのようなものを、みさちゃんはこつこつとやってきました。

今回はその出張バージョン。cocoroomにて野草のお料理を味わうという企画でした。

以前から助手として雑用を担当していた私は、両日とも「もしかしたら吉野に忘れ物を取りに帰れる人材」として参加しました。

両日とも予約がいっぱいになるほどの盛況ぶり。お客さまも和やかで、スタッフも珍しい食材ながらも頑張り、どうにか無事に終えることができました。

私は舞台監督ながら、タイムスケジュールやスタッフの作業を指図するなどして、あーだこーだと走りまわりました。

2日目には余裕を見せたみさちゃんが、忙しい最中に何故かスタッフやremoさんに野菜ジュースを作ったり、かなちゃんの滋養強壮のために玄米スープを作り出したりして暴走ししましたが、何とか調整をはかり、本番に影響の出ないよう取りはからいました。

開場後はみさちゃんの野原の詩をかなちゃんが朗読、野原のお酒を飲みながらの会食。

会場内で揚げた野草や花のテンプラもリクエストが出るほどの好評でした。

春の野原の香りがcocoroomに広がったひとときでした。ピバピバ。

●畑を食べるかい 7月15日(木)・16日(金) 19:00

吉野の自家農園とりたてまるごと畑野菜と詩の朗読

料理人:上田味左子(野草料理研究家・詩人・母) 案内人:上田假奈代(詩人・娘)

料金: 2500円 野原のお酒つき

ひきつづき、にやあ搜索日記より

猫180匹 猫1匹 上田假奈代

撮影のために
フェスティバルゲートから
一心寺の坂道をあがっていく

ビルに囲まれた ちいさな堀越神社の
境内を一巡し
木々のみどりに風をまきつける木々に
シャッター音

おなじ道をもどっていく

この坂道 あんまり大阪っぽくないよね
とカメラマンと話す
上町台地の端っこってかんじよね

寺の塀しろく
石の階段
天王寺公園のおいしげったみどり

美術館の前から橋を渡ろうとしたとき
猫に餌をやっているおじさんをみつける

わたしは何もいわず
そのおじさんの傍らに腰をおろしてしまう

「にやあ ご飯もうてんのん
よかったなあ」

おじさんは こちらをちらっと みる
缶詰をあける手をとめない

おじさんの足下には缶詰が10缶ほど
カリカリ1kg入り2袋
ビニール袋にその両方をいれて
慣れたつきで 口をしばり
よくまざるように その袋を振る
そうやって何袋もの 餌袋をつくっている

「わしなあ もう16年
こうやって 猫に餌やるとるんや
毎日まいにち 雨の日もな」

「おじさん ふしぎな人ですねえ」

「わしなあ こどももおらんさか
この子らのこと かわゆうて 心配でな」

「おじさんのおかげで
このあたりの猫は元気なのね」

「雨の日もな くるねん
おじさんがバチンコ負けて お金ない日もな
この子らには 餌こうて
自分はお茶飲んでる方がええねん

自分が飯かうて
この子らが 腹すかしとる思たら
もう寝られへん
せやさかい 毎日
ここから 天王寺公園のあたりまで
10カ所ほど やっとんねん」

「餌代も大変でしょう」とカメラマン

「でもな いまは60匹ほどやから
6~7万ですむねん
5年前は 180匹ほどおったから
13~4万かかったわ
こいつはな (黒猫を指さす
その腕には金と銀の時計 指輪がふたつ)
この子とこの子のお母さんやねん
また しばらくしたら 子ども産みよる」

「はあ 猫の家系もよくござんじなんですわね」

「そうや どの猫がどの猫の子か 知っとるで」

「あの わたしも去年
フェスティバルゲートで
飼い猫がいなくなったんです」

「どんな猫や」

「太った 灰色の よく鳴く猫です」

「そうか みたことないなあ
かわいそうになあ
心配やる
あっち (新世界方面を指さす) のほうやと思うで
おっちゃんは みたことないから 絶対あっちや
火事場のとこは みたんか?
猫は夜行性やから 夜にみなあかんで
びゅーって みにくいだけで
そこに 4時間も5時間もおるわけちゃうやろ
ほんだら 1日に何回もいかなあかん
そやけど 心配やなあ」

猫180匹の心配をしてきたおじさんは
たった1匹のわたしの猫を心配してくれる

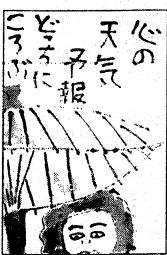
おじさんは たちあがる心配なく
餌をまぜては 振っている

「では 行きますわ」

わたしは 猫のあたまをなぞて
たちあがり 橋を渡る
橋のむこうの塀のうえに 2匹の猫がじゃれている
いまから おじさんとこで ご飯を食べるのだから
明日を生き抜くために

第2部 かのこきのこ〜空を泳ぐように〜最終回

前回まで：視覚障害者施設・日本ライトハウスで出会ったかのこさん。多くの人達の協力を得てcocoroomでの個展の初日を迎えた。



蓋を空けてみると、「かのこきのこ展」初日の絵手紙ワークショップとオープンングパーティは、駆けつけてくれた親戚や友人、ライトハウスの仲間達も加わり盛況で、わたしたちは胸をなで下ろした。新聞にも小さな記事ではあるが、取り上げられ、新規さんもちらほら。かのこさんは、この個展が決まってからは、ひきこもり状態から脱したようで、いきいきと来客をもてなしている。ワークショップは何度も笑いが起こり、つづくパーティでは、参加者それぞれの思いが溢れて、暖か感動的なものになった。展覧会開催中の2週間に渡って、かのこさんはcocoroomに通い続けた。かのこさんも大変だが、付き添いのお母さんの気苦労たるや如何ばかりか。額装され壁に掛けられている14点の絵手紙は、膨大な量の中から厳選されたもの。かのこさんが今日まで生きてきた中で感じたこと、喜びや悲しさが込められた作品一点一点に、上田がタイトルをつけていった。せっかくの展覧会だから、これまでやったことのないことをしようと、舞台いっぱい広げられた模造紙にかのこさんは絵筆を走らせる。展示された作品の半分以上に赤売の印がつけられ、クローゼットパーティを大団円で迎えるころ、このお祭りが終わらなければいいな、と感じていたのはわたしだけではなかっただろう。

晩秋のある日、cocoroomに立ち寄ってくれたかのこさんはあまり元気がなく、絵手紙もあまり描いていないようだった。上田は言う、「勇気とは一大事に必要なのではなく、繰り返しの毎日の中であきらめないこと」だと。かのこさんが、繰り返す日々の中で、もう一度筆をとり、自らの力で展覧会を開くことを切に願う。(了)

彫師という仕事

木村智子

バーストやタトゥートライバルなどの刺青の専門誌を頻りに見ていた頃、「刺青の彫師ってカッコいい仕事やなあ、ストイックで美しく…こんな仕事できたら最高やなあ…」と思っていた。外側から見てそう思うだけの憧れの域を出ない他愛ないものだった願望が不思議な縁を通じて現実のものになるとは、まさか考えることもなかった。

何回か実際に彫る現場を見学させてもらったが、毎回夢のように感じる。「痛み」をくりぬけて立ち現れた龍や牡丹の美しさに胸を締めつけられる。一度体に彫ればもうもの肌に戻ることはない。後戻りのできぬ一回限りのセッション。彫りが始まる前の現場には独特の緊張感が立ちこめている。客は長時間続く痛みを前に落ち着かない。それでも彫りたいというアンビバレンツ。そういう客に彫師はあれこれ気をつかわない。針で肌を切り裂き色を投入していくのだから痛くないわけがない。この痛みに耐えられないようでは刺青がもつ社会的リスクを背負えるはずがない。刺青とはそういうものなのだ。フンポイント外ウエーが流行り、ファッションステイトメントとしての刺青がもてはやされても刺青は気軽なものじゃないのだ。彫師は直前まで「絵」の手直しに余念がない。どんなに入念な打ち合わせをしても、客の筋肉のつき方や流れによって「絵」は手直しされることが多い。失敗は許されない、美しくなければ意味がない。彫師から気迫が立ちのぼる。彫師と客の「気」に現場は強い磁場を帯びる。私はこの時いつも見てはいけないものを見てしまったような罪悪感を感じるのだ。何かガムく出し出している。やるせなくせつない。彫師はそんなぬきざしならない場所に位置する仕事だ。

至上のものに純潔を誓う乙女のように私はこの仕事に自分を注ごうと思う。

この続きは、僕と喋ろう

谷垣賢行

五月十日、午前七時、彼は目を覚まし一度目の瞬きを意識的にした後、二度目を無意識にとても早く終えた耳に飛び込む楠木がざわめく音、そこに重なる雨雫の音。

彼が小学生の頃、家に遊びに来た友達が強風に揺れる木々のざわめきを雨と勘違いする事がよくあった。その度に彼は木の葉が擦れる音なのだとして少し得意げになりながらもそれを悟られないように話していたのだが、年月を経た今日、彼は雨風と木々の織り成す音がとても綺麗なノイズである事に気が付いた。その音があまり耳慣れない音だと分った時に、小学生の耳に判断しかねたのも無理もないと思った。

彼は激しい雨の音からその雨が止む時までの長いフェードアウトを楽しもうと考えていたのだけれど、スッと突然雨は降りやみ、暫くすると鳥の声まで聞こえてきた。楽しみを奪われた彼は、仕方なく起き上がるとテーブルの上に残された一切れのトンカツを見つけた。昨日の夜、見るのも嫌だった物だ。昨日と同じ物が置いてあるにもかかわらず彼の気持ちは少なからず寝る前よりもおいしく食べる事が出来そうであった。彼は、昼ご飯を一切れのカツ丼にすることを決め、おいしく食べるタイミングを計る事が、他のリズムに共通するのではないのか?と考えようとしたのだが、ただ単に自分が食べたい時に物を食べているという非常に賢い行為から分ることなど、無いような気がしてすぐに考えることをやめた。一つ考える事を止めると彼は 昨日ビートに聞いた話を思い出した。ビートは一ヶ月前に人を殺すと綿密に計画を立て、準備までしていたらしいのだがそんな時に限って思いよりもぬ家族からの電話があり、とても複雑な心境の中、仕事前の明け方に親友が話をしに来てくれて、思い留まったという話だった。話はその後も長きに渡り、人を殺すには冷静な自分が居ることや、その時の服装の話、思い留まっても、そのパワーが残っているので発散しなければならないという話、果てには宗教から宇宙のリズムへと向かっていった。その話を聞いた彼は人を殺したいとは思わなかったがその一つの強い思いに憧れに似た感覚を感じた。なぜなら、彼は多感な頃、ありとあらゆる事に好奇心を抱いて取り組んできたが結局の所自分がどうなりたいたのか、どうしたいのか?自覚していることの少なからず自分のことを人にうまく伝えられなかった。その彼が今年に入り最大の興味を示したのが「こえとことばとこころ」についてだった。(つづく)



鳳仙花

中上健次 新潮文庫 ¥552

露地の奥に思い出を持つあなたへ：★★★★

ミュージシャンの勝野タカシさんから届いた包みを開けると1冊の本。コロールのライブでの出番まで事務所の机の前に座って、しずかに文庫本を読んでいた彼の姿を思い出す。本屋でみつけたからと、短く優しい手紙もそえられている。その日から、地下鉄に乗るときはいつもこの本を開いている。ときどき、動物園前を乗り越えてしまいが、反対側のプラットホームでも本を読んだまま顔をあげない。パチとはげる鳳仙花の、季節への区切りのつけかたが、主人公フサを思わせる。ページを繰り、12歳のフサが大人の女になっていく。中上健次は、フサを愛していたのかと思われるほどに、フサの白い肌とてのひらに包まれる乳房はなまめかしく、冬の和歌山の冷たさに冷たければ冷たいほど、正気を戻せるともいうように、彼女に井戸の冷たい水を飲ませ、冷たい床を触らせる。戦争の前後を生きた女が、子どもたちのために今日の飯を得るために、なにを思い、なにを考えたのか。はさんだ葉のわたしは、あいかわらず軟弱なまま、フサのようなたくましさをもてず、なんとか勇気をふりしぼろうと必死なまま。フサが幼いころ見た水仙が一面に咲く古座の海岸を、中上が愛しきれないほど愛したその地を、大阪の地下の暗い線路のうえで、いっしょにおもいだそうとする。

CHIMES

—prick up your ears—

川崎まみち

Cocoroom booking exhibition

桜の咲く春から始まりましたCHIMES第1回は、ログアウト〜部屋から抜け出して〜(4月1日(木)〜4月28日(水))主催は詩のサイトことばcan.com(旧ばえむの部屋)ネット上で発表されている作品を今回は外で展示してみたいとのことで、「こえとことばとこころの部屋」のcocoroomが会場に選ばれました。会期中は偶然にも三上寛の詩学校があったり、四国の詩人が突然たずねてきたり、やたらと詩人率の高い1ヶ月でした。これはもう偶然なんかじゃなく「こえとことばとこころ」はおたがいに「ひきあってる!」全国から投稿された作品110点は、手書き、写真、コラージュ、イラスト入りなど「読む」だけでなく「観る」のも意識されたものが多くみられました。作品自体は個人の楽しみの域を出ていないかもしれないけれど、「何かを伝えたい」という猛烈なエネルギーには感心。作品の質の善し悪しは受け手の判断に任せて、溢れる想いがあるのなら遠慮せずに表現してもらいたい。今後も生活の中で想いを形にすることを続けて欲しいと思いました。5月はシャック三原の似顔家(にがおか)さん展(5月1日(土)〜5月30日(日))cocoroomいっばいに有名無名人の顔顔顔!朝一番に鍵を開けてだれもいないcococoに入ってもCafeが騒々しい感じがするから不思議。普段は観ることのない、エスキースや原画も展示され、Tシャツやポストカード、漫画と同様に販売もしています。シャックさんは会期中ほぼ毎日在廊。なんと¥1000で似顔絵を描いてくれます(安い!)所要時間は10分弱(早い!)最初の3分ほどで鉛筆であたりをつけ、あとはマジックでぐいぐい仕上げてゆきます。迷いのない線と観察力はさすがプロ!初日から10日ほどで60人もの似顔絵を描いたシャックさん。まだまだ描き足りないといばかりに、cafeメニューを作ってくれたり、cocoroomスタッフを片っ端から似顔絵にしたり。展示される作品は増える一方です。ぜひあなたも描かれに来て!

今後の予定 開廊時間12:00〜22:00 入場無料

- 6月1日(火)〜6月27日(日) 魂の波動〜オアンネスの気持ち・3〜/ゾラサン(イラスト)
- 7月1日(木)〜7月14日(水) わたしは生きてる展〜血液グラフィック日記〜/木村泰子(グラフィックデザイン)
- 7月18日(日)〜8月1日(日) AshArtAlbum Vol.01「ラクガキバタフライ」/Ash-irica(イラスト)

【追記】原稿書きは大変!締め切りを前にスタッフ全員がウ〜ウ〜唸っている中、ひときわ大きなウ〜ウ〜が。声の主はばえ犬通信以外にもたくさんの原稿を抱えている假奈代さん。なんと小説も書いたのです!ポードフォンを使っている人は6月から読む事ができますよ。

もーれちゅ!マウス絵道場!

〜詩のオーケストラサイト共同企画〜

チェブラーシカ
絵：のぞ

大胆なチェブラーシカちゃんですね。ヌクヌクなんですね。夏は暑いですね。耳のあたり。下の字は一生懸命書いたんですね。(か)

Чебрышкa

today's

9/365

こころのなかに、大きな庭を持っているか
採取日時：2004年4月9日(金) 明け方採取場所：夢の中
湿地帯のような夢の中で、階段をおりたこの人は「こころのなかに、大きな庭を持っているか、それが大切なんや」と言った。しばらくして、東京の友人から、「こころのなかに、大きくなくてもいいから庭を持ちたい。」とメールが届いた。

文芸トコトコ 20:30 start 1drinkオーダー

- 6/15(火) その昔「将棋とともに生きる」〜闘争心の行方〜 / 語り部:近藤和見(劇作家)
6/25(金) その式「榎村直巳とニールヤング」〜80's青春ドロッブアウト〜 / 語り部:よこいじ
7/2(金) その参「空手バカ一代を語る」〜マスを語る〜 / 語り部:切通くん
7/6(火) その四「エッセイは読むのが楽だから好きだ」〜人生いろいろ〜 / 語り部:ウクレレ前田

キモノ大好き! ガールズ集まれ

6/18(金) あなたとキモノが会おうとき、こころに風が吹くよ
6/18(金)19:00 1drinkオーダー
今秋開催予定のキモノフェスタの準備会

■着付け教室

5/23(日)17:00、6/5(土)16:00、6/24(木)19:00、7/7(木)19:00
受講料:¥1500 / 講師:上田假奈代

■cafe番外アラブ企画「エルサレムカフェ」

6月5日(土) 12:00~22:00 / シェフ兼案内人:藤井康虎

■即興表現WORKSHOP#6

6/1(火)19:00¥1500(見学のみも同額)
音楽・身体表現・美術・詩・パフォーマンス・その他・あらゆる表現行為4
企画・参加:向井千恵ほか / 問:090-3651-0332(小林)

■欠陥ロケット

自主制作フィルム上映会「わらう」/「琵琶湖ヨーグルト」
5/30(日) 13:00、15:00、17:00、19:00 ¥1200+1d

■Lo-lo Lo-lo「夏祭り2004」

19:00 ¥1500drink付
出演:Lo-lo Lo-lo(ダンスパフォーマンス)、夢想回路(メタルパーカッション)、高田繁(マイム)他
すべて開場は30分前です。+1dは、要ドリンクチケット(¥500)です。

関連情報

■上田假奈代の詩の学校

5/12・26、6/9・23、7/14・28、8/11・25、9/8・22(すべて水)以降もつづきます 19:30 / ¥1,000
講師:上田假奈代
会場:應院院 大阪市天王寺区下寺町1-1-27・06-6771-7641 / 問:06-6636-1612(コロールム)

■親と子の詩のワークショップ「声とことばで歩く」

5/22、6/5、6/19、7/3(すべて土) 10:00start / 全4回アペアで¥4,500
講師:上田假奈代
会場:クレオ大阪東(大阪市城東区嶋野西2-1-21) / 問:06-6965-1500(クレオ大阪東)

■詩のワークショップ「上手に書く人生なんて、そうそうないけど、いいことばと声を持つ人になってみる」

8/9(月)、10(火)、12(木)すべて16:00~18:00 料金無料(各回15人)
対象:中高生(10代) / 講師:上田假奈代 会場:京都芸術センター茶室(南館4F)
申込:京都芸術センター・075-213-1000・京都市中京区室町通麩粟寺下る山伏山町546-2

■声とことばのワークショップ

5/15・29、6/12・26、7/10・24、8/7・21、9/11・25(すべて土) 13:30~ / 参加無料
講師:上田假奈代、飯島秀司
会場:視覚障害者リハビリセンターライトハウス・大阪市鶴見区今津中2-4-37
問:06-6636-1612(コロールム)

Cocoroomでは、寄付をつのっています。

運営のための寄付をつのっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。5,000円/1口 何口でも結構です。

郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
cocoroom代表 ウエダカナヨ

服部聖一さま、宮前のかさま、シャック三原さま、上田味左子さま、馬頭琴の彼さまより
お心添えいただきました。



ぼえ犬通信 名古屋地区配布決定!!(協力:加久祐子)



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート4F
tel&fax. 06-6636-1662 tel.06-6636-1612
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

- *地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
*大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
*JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
*南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
*阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ

P.P.P.C.B.N ~cocoroom booking night~ 19:00start ¥1,500+1d

- 5/25(火) 狐天狗(登敬三X井崎能和)、丘田イージマン(ネオビアンブルーズ)、吉田大吉VS伊澤八段(シタールVS陶芸) 他
6/6(日) 鉄割アルパトロケット(オブビート・パフォーマンス)、芝居紳士(路上芝居)、井之上貴一(フォークソング)、びびんげ(変態トリオ+まっとうな人?)、polyrhythm(藤澤はづき+若旦那家康)
6/8(火) 悠々劇的特選artist(反応反射 速攻即興)、谷川修一(何をするかはお楽しみ?)
6/22(火) 三田村管打団!(ギャルプラス?) 他
6/23(水) ひげ親父の夜。「おまえの心にひげは生えているのか!」心のこもったひげ料理が食べられるかも?! 時間未定 前売¥2,000 当日¥2,500共に1drink付
6/26(土) サタデーナイトスペシャル / 出演者募集中
7/13(火) 悠々劇的特選artist 他
7/24(土) 狛犬な夜 第4夜/ジャンポール・マキプロデュース 18:00start(予定) ニッチモ&サッチモ 他
7/27(火) 出演者募集中
7/30(金) scenery/風景 vol.2 イファ&Traditional Speechプロデュース イファ、diadrams 他

BOOKS ARCHIVES 20:30start 入場無料(要ドリンクチケット)

声が明日のページをめくってゆく / 朗読:上田假奈代、ウォン・ジクスー
第6夜 5/17(月)、第7夜 5/24(月)、第8夜 5/31(月)、第9夜 6/7(月)、第10夜 6/14(月)、第11夜 6/21(月)、第12夜 6/28(月)、第13夜 7/5(月)、第14夜 7/12(月)、第15夜 7/20(月)、第16夜 7/26(月)、

Chimes ~prick up your ears~ 12:00 ~ 22:00 入場無料

- 5/1(土)~5/30(月) vol.3 似顔家(にがおか)さん展 シャック三原/似顔絵
6/1(火)~6/27(日) vol.4 魂の波動 ~オアンネスの気持ち・3~ ジラサン/イラスト
7/1(火)~7/15(木) vol.5 わたしは生きてる屋~血液グラフィック日記~ 木村泰子/グラフィックデザイン
7/18(日)~8/1(日) vol.6 AshArtAlbumVol.01「ラクガキパタフライ」 Ash-irica/イラスト

ROCK'n TALK cafe 20:00 start 1drinkオーダー

- 5/16(火) 番外編「ビール祭り」 15:00くらいから 終了時間は未定 *お特なスペシャルチケットも発売
6/9(水) vol.3 スペシャル版「ロック(69)の日」*語りたいロックCDを1枚以上、ご持参ください
7/8(火) 番外編「映画ええがな」

ぼえ茶会

- 6/11(金) vol.7「スタートラインに立たな失敗も成功もないわな/イベント制作講座」20:00 START 案内:谷垣賢行(何がしたいのかよくわからないけど、強運になりたい人) 上田假奈代(強運をつかむのも生きる姿勢次第からね)
6/20(日) 特別編「バンドネオンとの運通」~夕暮れが深呼吸する~ 16:00 START 出演:バンドネオン奏者(オルケスタアストロリコ)奥村友紀、下城聖史、上田假奈代(詩人) 上記料金:前売 ¥1,300・当日 ¥1,500・中高生 ¥1,000 / すべて+1d
7/15(木) vol.18「煙をたべるかい」 19:00 START
7/16(金) 吉野の上田家の自家農園でとりたてまるごと畑野菜+詩の朗読 料理人:上田味左子(母、詩人) / 案内人:上田假奈代(娘、詩人) ¥2,500(野原のお酒付) 要予約(コロールムへ)

編集後記

「生きる現代文学をやりたい」と思い、でもどうしたらいいんやろうと考えまくっていたら、ある日突然ブログをはじめました。その次になぜか月に1本、小説や紀行文を書くことに。読者になれるのは携帯電話のボナーフォンの方だけ。100円/月で4人の作家が小説や何やらを毎日配信する。この1人として、わたしは書くのだけれど、もう毎日この小説のことで頭がいっぱい。まさに生きる現代文学?!(か)
「生きる現代文学」http://booksarch.exblog.jp
「Charara★文庫」のなかの「ステーション文庫」
http://www.vodafone.jp/scripts/japanese/station/list.jsp?categoryOid=536880398&category=536880398

■cocoroom 下半期事業成果報告書

2003年度の活動をまとめました。ご希望の方はお申し込みください。

■cocoroomをご利用ください

あなたの活動がスムーズにそして継続できるような協力体制でのぞみます。企画書をもってお訪ねください。
使用管理料:入場料の折半(基本保証2万円)

■スタッフ求む!!

ボランティアスタッフから有償スタッフまで。やりたいことを実現するためには、なんてたくさん乗り越えなくちゃならないものがあるのでしょう。あなたのチャレンジをコロールムで実践してみませんか。コロールム事務局までお気軽におたずねください。